

Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale) ゲデンクシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)

1842年に開設されたハレの刑務所は、ナチの司法のもと男性受刑者に対して重禁固刑を執行していました。これらの受刑者の中には、政治的な理由で有罪判決を受けたドイツ人、戦時捕虜や強制労働者がいました。それに加え、ここでは1942年の秋から終戦までにヨーロッパ15ヶ国とチュニジア出身の合計549人に対して死刑が執行されました。1945年4月に囚人たちはアメリカ軍によって解放されましたが、同年夏以降は占領国となったソ連によって数年間この施設が利用されました。この期間、ソ連は軍事裁判所の力によって占領地域でも自らの法解釈を押し通し、特別収容所への追放を行いました。1950年から1989年まではドイツ民主共和国(DDR)の国家保安省(シュタージ)が建物の一部を拘置所として利用し、その他は刑務所、1954年以来特に女子刑務所として利用されました。

1996年にオープンしたゲデンクシュテッテ ローター・オクセの建物は、ナチ時代の処刑場であり、後にシュタージによって尋問施設に改築されました。ここでは、1933年から1945年、そして1945年から1989年の間に政治的な理由で司法の犠牲となった人々に関する常設展示、及び研究と教育プロジェクトが行われています。



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

Geschichte / 歴史

1842年から1933年

1848、49年の革命の結果、その6年前、1842年に開設されたこの刑務所に初めて政治的な理由で囚人が収容されました。「ローター・オクセ」という名前はおそらく建築材料—赤く焼かれたレンガと斑岩、赤い珪長石—とこれらの材料を運ぶ際、また囚人を駅から刑務所に運ぶ際に雄牛の荷車を使ったことにちなんでいます。1871年のドイツ帝国建国後、ライプツィヒのライヒ裁判所で有罪判決を受けた多くの囚人が「ローター・オクセ」に収容されました。1885年2月にはここで「皇帝暗殺者」のアウグスト・ラインスドルフとエミール・クフラーが処刑されました。

ヴァイマル共和国時代には、第一次世界大戦後の中部ドイツでの蜂起への数多くの参加者が左派の一部とみなされ収容されたのに加え、1922年の外務大臣ヴァルター・ラーテナウの幫助殺人の罪で極右のエルンスト・ヴェルナーもここに収容されていました。

1933年から1945年

ナチ独裁の間、「ローター・オクセ」はさしあたり軽懲役刑の受刑者を収容する刑務所(Gefängnis)のまま、しかし暫定的な「保護拘禁収容所」としても使われました。重懲役刑の受刑者を収容する刑務所(Zuchthaus)に改編され、収容可能人数が790人に増えた後、1930年代なかばには、ベルリンの上級地方裁判所で有罪判決を受けた共産主義者と社会主義者が主に収容されました。第二次世界大戦の開戦とともに、多くの外国人収容者が刑務所に収容されたり、戦時捕虜や強制労働者となりました。彼らはたいていの場合、食料品の窃盗や禁止された接触をはかったことによりドイツのために労働力を動員させられました。

刑務所の病院として使われていた建物の中に処刑場が作られた後、1942年秋から終戦まで、多くの民事裁判所と国防軍裁判所からここへヨーロッパ15ヶ国とチェコ出身の549人の男性、女性と青少年が送られ、ギロチン、または絞首刑によって処刑されました。

1945年から1989年

1945年4月にアメリカ軍第104歩兵師団"Timberwolf"によって囚人が解放され、同年夏以降は占領国となったソ連によってこの施設は利用されました。ソ連は軍事裁判所(SMT)によって自らの法解釈を押し通し、そして多くの囚人たちをさらにミュールベルク、ブーヘンヴァルトとザクセンハウゼンの特別収容所とグラーク(ソビエト内の収容所)に追放しました。ハレでは今日まで、ソビエト軍事裁判所の死刑の執行場所ならびに犠牲者の行方はわかっていないままです。

1950年から1989年まではドイツ民主共和国(DDR)の国家保安省(MfS / シュタージ)が建物の一部を拘置所として利用し、その他は刑務所、1954年以来特に女子刑務所として利用されました。

シュタージは建物のAの部分(第14課—拘置所—)として権限のうちに置きました。さらに、「ローター・オクセ」には1989年秋まで第9課(取り調べ、捜査手続き)と第8課(監視、捜査)ならびに1980年代以来第22作業班(テロ予防)が存在しました。

シュタージの政治的弾圧は初めにエホバの証人に向けられ、公開裁判のうちでソビエトの範例に従って判決がくだされました。更に反体制派やスパイ、またはそうと思われる人々が「アム・キルヒトアーのシュタージの公共施設("MfS-Objekt Am Kirchtor")」に収容されました。1953年6月17日の東ベルリン暴動の後には、更に多くの人々がここへ送られました。「ローター・オクセ」は新たに多くの人々が収容され、収容者たちはその数の増加によって非情な収監状態と横暴にさらされました。

特に1975年のヘルシンキでの全欧安全保障協力会議(KSZE)の後、人々はますます合法に(移住要請("Übersiedlungsersuchende"))または違法に(共和国逃亡者("Republikflüchtige"))DDRを離れようしました。出国を犯罪化するために、ドイツ社会主義統一党(SED)は新たな法案の一式を出しました。

当初、尋問はシュタージの拘置所でほぼ例外なく夜間に行われており、日中、収容者たちはさしあたり独房に拘禁されていました。収容者が一切抵抗しないよう、水責めの監禁室、窓のないせまい暗闇の独房や隔離された独房も設けられていました。2、3人を同じ囚人房に収容する場合は、スパイ(囚人房情報提供者(Zellinformer))としての職務を与えられた収容者によって、収容者たちの会話の内容をシュタージが把握できるようにするために行われました。

1950年から1989年の間に約10,000人がハレのシュタージの拘置所に収容されました。1933年から1945年、そして1945年から1989年までのこの二つの時期に刑務所に収容された政治的な囚人の総計は、まだ明らかになっていません。

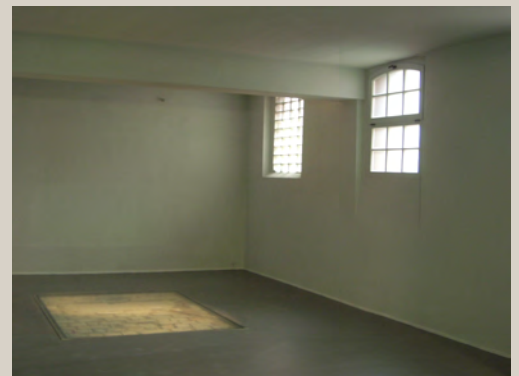
Gedenkstätte / ゲデンクシュテッテ

刑務所「ローター・オクセ」の歴史的な場所としての特徴は、二つの独裁の時代の反体制派、またはそう考えられた人々の政治的な迫害とそれに伴った人権侵害について一般に公開されていることです。

この施設の職員によって、DDRのシュタージの遺産一部屋やそれぞれの階は荒廃した状態でしたが一が引き継がれました。すべてのシュタージの書類はすでに連邦政府によるドイツ民主主義共和国国家保安省の書類監理に関する業務の委託機関(BStU)の倉庫に保管されていました。そのため、ここで重要なことは「ローター・オクセ」で活動していたシュタージの部局のファイルを調査し、再検討することでした。

この場所における1933年から1989年の政治的司法についての研究作業の過程で、ゲデンクシュテッテの建物の一階ほぼ全てがナチの時代(1942年から1945年)に処刑場として使われていたことが明らかになりました。これとともに、この建物がナチ、DDRの二つの時代に使われていたというその後のゲデンクシュテッテの構想に重要な問題と、そしてこの建物をどのように扱うのか、ということも明白になりました。さらに新たな計画の中で、文化財保護的な観点にもふさわしいこの建物の多目的性の価値を認めることにもつながりました。

ゲデンクシュテッテは、それに加えて学び、教育と研究の場、そして悲しみ、想起と記憶の場です。ゲデンクシュテッテを訪れる人々、特に当時の犠牲者の方々およびその犠牲者のグループの一員が、各々この場所にとどまることができるようになっているのです。



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

Dauerausstellung / 常設展示

ゲデックシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)の常設展示は、ゲデックシュテッテの建物二階分になり、広さにして800㎡以上です。

1933年から1945年までと1945年から1989/90年までで分かれた展示スペースは、一方でナチ独裁、もう一方でソビエト占領時代とドイツ民主共和国における政治的司法(司法を政治的な目的で道具化すること)について展示を行っています。この二つの展示スペースの間の階では特別展示が行われています。両展示スペースの展示パネルでは行為者、犠牲者と政治的な迫害について説明がされています。そして、展示物、オリジナルの資料と個々の事例についてまとめられたファイルは刑務所についての記録を補足し、完全なものにしています。また、タブレットPCを使ってプロパガンダ映画、写真と資料の一コマ、並びに1945年から1989年までの期間に関しては当時生きていた人々のインタビューなどを検索することもできます。

一階ではナチ独裁の間に「ローター・オクセ」がどのように使われていたのかについて一迫害の理由、囚人と職員、そしてさまざまな裁判所について、詳しく知ることができます。処刑場として使われていた部屋には当時の床が残されており、またすべての犠牲者の名前が載った本が置かれています。その他の部屋では、犠牲者の遺体のゆくえ、大学機関によって彼らの遺体がどのように利用されたのか、そしてその埋葬について詳しく説明されています。そして最後には、1945年4月の撤退の行進と終戦時のアメリカ軍による「ローター・オクセ」の占領についての説明がされています。

3階のDDR時代についての展示スペースは当時尋問のために使われていたフロアであり、今でもいくつも当時の名残を残しています。これらはシュタージの政治的司法を知るために視覚的な役割を担っており、小さな尋問室が並ぶこのフロアの構造を、訪れる人々は今日も追体験することができます。また、武器倉庫や写真室にはオリジナルの品々が置かれています。ある二つの部屋ではシュタージの尋問方法についてのインスタレーションが展示されています。



© Sammlung Gedenkstätte
ROTER OCHSE Halle (Saale)



© Sammlung Gedenkstätte
ROTER OCHSE Halle (Saale)



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

1945年夏から1950年代までのソ連占領時代の「ローター・オクセ」についての展示は小さく、DDR時代の展示の前の二つの部屋と廊下に展示されています。ここにはソ連に移送された囚人の木のスーツケース、綿のジャケットや毛皮の帽子などが展示されています。

Bildungsangebote / 教育プロジェクト

ゲデックシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)では学校の子供たち、特定の職業のグループの方々などに向けて様々な教育プロジェクトを積極的に行っています。詳しくはドイツ語のホームページをご覧ください。プログラムをご希望の方は、ご来館の一週間前までに以下までご連絡をお願いいたします(日本語のプログラムはございませんのでご了承ください)。お申込みは無料です。

Tel : 0345-220-1337

または

E-Mail : [info-roterochse\(at\)stgs.sachsen-anhalt.de](mailto:info-roterochse(at)stgs.sachsen-anhalt.de)

その他にもゲデックシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)では、犠牲者、当時を知るの方々による講演会など多くの催し物が行われています。ドイツ語のホームページ、Facebookにて随時情報を更新しています。



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

Öffnungszeiten / 開館時間

月曜、金曜 : 10:00~14:00

火曜~木曜 : 10:00~16:00

第一土曜、日曜 : 13:00~17:00 (両日とも14時からガイドを行っています。)

開館時間以外のご来館については事前にご相談ください。

入館料は無料です。

祝日は閉館日となっています。

Anfahrt / アクセス

トラムでの来館

7番で停留所Hermannstraße下車

または

8番で停留所Peißnitzstraße/Diakoniewerk下車

お車での来館

A14とB100でハレ(ザーレ)のParacelsstraßeまで(B100はKönnern方向出口下車)、その先Wolfensteinstraße、Große Brunnenstraße、Burgstraßeを通りAm Kirchtorまでお越し下さい。

Kontakt / お問い合わせ

Stiftung Gedenkstätten Sachsen-Anhalt Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)
ザクセン=アンハルト ゲデックシュテッテ財団 ゲデックシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)

Am Kirchtor 20b
06108 Halle (Saale)

Tel : +49 345 2201337

Fax : +49 345 2201339

E-Mail : [info-roterochse\(at\)stgs.sachsen-anhalt.de](mailto:info-roterochse(at)stgs.sachsen-anhalt.de)

Facebook : www.facebook.com/GedenkstaetteRoterOchse/

Leiter der Gedenkstätte / 館長

Michael Viebig

[Michael.viebig\(at\)stgs.sachsen-anhalt.de](mailto:Michael.viebig(at)stgs.sachsen-anhalt.de)

Tel : +49 345 2201331



© Sammlung Gedenkstätte ROTER OCHSE Halle (Saale)

Hinweis für Besuch / ご来館の前に

ゲデックシュテッテ ローター・オクセ ハレ(ザーレ)は、1933年から1945年までのナチ独裁の間ここで拘留され、処刑された政治的な理由による刑事司法の犠牲者を想起させる場です。

また同じく、共産主義の独裁の間、1945年から1952年までのソビエトの秘密情報機関と軍事裁判所の横暴な収容と判決、ならびに1950年から1989年までの国家保安省とDDRの刑罰の執行機関によって拘留された、政治的に迫害された犠牲者を想起させる場でもあります。

これにふさわしい記憶を守るためには、ここを訪れるみなさまにふさわしい行動をとっていただくことが求められます。

過去に犯された犯罪と人権侵害の否定が政治意識に含まれる急進的な政党、または組織の構成員とそれと関わりのある人々に対して、ゲデックシュテッテへの入館をお断りする場合があります。独裁への賞賛を表すような衣類やシンボルを身に着けている方も同じくお断りする場合があります。

ゲデックシュテッテの職員には、当施設を代表し、非人間的な、または反民主主義的な発言が目立つ、または目立った訪問者に対し、建物からの退去、または立入禁止を言い渡す権利があります。